

はつかいち福祉ねっと通信

No.28

発行 はつかいち福祉ねっと事務局(廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ)

連絡先 TEL(0829)20-0224/FAX(0829)20-0225/E-mail fukushi-soudancenter@true.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~kiraria/>

「ねっと通信」の個人宛メール配信希望者、募集中!

平成26年度はつかいち福祉ねっとの取り組み報告

全体会

2月13日(金曜日)に、あいプラザ多目的ホールで、平成26年度第2回目の全体会を行い、総勢約80名の方にご参加いただきました。

平成26年度は、はつかいち福祉ねっと全体で「第3次廿日市市障がい者計画」「第4期廿日市市障がい福祉計画」の策定に向けて取り組んできたこともあり、各障がい別会議から計画に対して話し合われた内容を報告してもらいました。

障害福祉課からは、本計画の概要について説明がありました。短い時間で十分に聞くことはできませんでしたが、1年間、皆さんと意見を出し合いながら作ってきた計画なので皆さん熱心に聞かれていました。基本目標である「ひとりひとりが笑顔で暮らせるまち はつかいち」を目指して今後も皆さんと一緒に取り組めたらと思います。

恒例となった当事者発表は、ピクトハウスの仲間(メンバー?)の“ぐりぐら劇団”によるペープサート(紙人形劇)でした。楽しいリズムに合わせて繰り広げられる人形劇を見た観客からは笑いもあり、ホッとする時間になりました。舞台に立たれた仲間からは「緊張したけど、みんなに見てもらえて良かった」「大勢の前でするのは恥ずかしかったけど練習した甲斐があった」などの感想を聞くことができました。

第二部の講演会では、広島市安佐南地域で活動をされているウイング可部の佐々木哲二郎さんを講師にお招きし、「8月20日広島市豪雨災害について【相談支援事業所の体験】」と題して講演をしていただきました。参加された方からは「廿日市で災害があったときの障害者の方への避難、その後の支援等考えていかないといけないと思った」などの感想をいただきました。



部会代表者会議

障がい別会議・課題別会議（14部会・ワーキング）の代表者、副代表者で構成する部会代表者会議は、年間7回開催しました。平成27年度の全体会リニューアルに向けた協議や各団体の情報共有などを通して、次々に新しい視点・発想の意見が出され、毎回の会議はとても活気に満ちていました。



毎年度、何かしらの新たな取り組みのしかけづくりをしてきた、部会代表者会議ですが、このたびの“ウリ”は…念願であった“はつかいち福祉ねっと代表者の印（公印）”を作成したことです。（←“形骸化することなく、現状にあわせて形をかえるはつかいち福祉ねっと”ですが、「さすがに、もう、当分は名称変更はないだろう」ということで(笑)）公印のお仕事トップバターは“はつかいち被災者生活支援サポートボラネット”協定書への押印。今後も、この公印は大活躍しそうです。

障がい別会議

身体障がい部会

『おりづる出前教室（レクスポ体験会）』、『廿日市市障害者福祉協会さんが広島大学地域連携推進事業で作成された「宮島安心ガイドマップ」を使っての宮島まち点検』、『視覚障がい者のための福祉機器と日常生活用具の展示会』に取り組みました。

その他、毎月開催した部会では、お互いの近況報告や情報交換も活発におこなわれました。



知的障がい部会

知的障がい部会では、毎月の定例会とおりづる出前教室を開催しました。

スポーツ交流センターのスポーツ指導員さんにお越しいただいたおりづる出前教室では、友和の里、くさのみ作業所でゆるゆるピクスを行いました。利用者さん一人ひとりのペースで、柔軟体操や音楽に合わせて手足を動かす体操を楽しむことができました。



精神障がい部会

交流企画として約70人で備北丘陵公園に行ってきました。事前に当事者と一緒に企画会議を3回行い、企画の段階から一緒に検討しました。

おりづる出前教室は、例年に引き続き、スポーツ交流センターの協力で色々なレクリエーションスポーツを体験しながら交流を行いました。

「こころの病を持つ人への対応を知ろう」というタイトルで主に当事者の家族に向けた講演会を実施しました。（42人の参加）廿日市の家族会についても情報提供をしました。

児童部会

児童部会では、おりづる出前教室と夏休み工作教室、“地域とのつながりづくり”アンケートを行いました。

夏休み期間中に開催したおりづる出前教室では、レインボーマッチシュート、スロービー等のさまざまなレクリエーションスポーツ、夏休み工作教室では、ぷるぷるゼリーキャンドル、モザイクタイルのルームプレートづくりを楽しむことができました。

“地域とのつながりづくりアンケート”では、つながり状況の確認や新たに児童部会に所属される方のつながり希望の確認を行うため、毎年アンケートを実施することとなり、アンケート内容の見直しを行いました。そして、主任児童委員さんと障がいのある子ども、その保護者とのつながりづくりのお手伝いをさせていただきました。



課題別会議

特別支援学校卒業生ワーキング

特別支援学校卒業生ワーキングでは、年4回のワーキングを開催しました。

夏休みのワーキングでは、前半に廿日市市在住の生徒がいる市外特別支援学校にもご参加いただき、各事業所の次年度受け入れ予定などの情報共有を行い、後半は、廿日市特別支援学校と進路に関係する市内事業所・機関のみで進路調整を行いました。

また、平成26年度で経過措置期間が終了し、特別支援学校卒業後にダイレクトに就労継続支援B型事業所を利用することができなくなる（就労移行支援事業所で「B型利用が適当かどうか」のアセスメントが必要になる）ため、市内の就労移行支援事業所にもご協力いただき、現場の実情に合わせたアセスメント時期、期間、流れなどを調整するための会議も開催しました。

福祉就労ワーキング

定例のワーキングの中では、各事業所のことをもっと知ろうということで、それぞれの取り組みの内容などの情報共有を行いました。

市役所ロービー販売や商工はつかいちの折り込み作業、info.表参道での事業所商品の販売などについては、これまで通りそれぞれの事業所が協働しながらすすめてきました。

新たな取り組みとしては、市役所ロビーのシューケースの展示、日赤看護大学から学会で使用するコングレスバックの注文、市役所教育指導課からアンケートのデータ入力作業などがありました。ワーキングの中で情報共有しながら1つの事業所で受けることが難しい仕事については、シェアすることで取り組めるよう工夫してきました。



ひとやすみ
ひとやすみ



余暇活動支援ワーキング

「障がい者スポーツ体験会」「カローリング交流会」「全体会での取り組み発表」と、余暇活動支援ワーキングにとっては、今までにない取り組みにチャレンジすることができた1年間でした。

企画に参加いただいた方達から、“楽しかった～！”と言っていたいただき、企画した自分たちも“楽しかった～！これなら、もっといけそう！”と感ずることができ、“楽しい”が次の“楽しい”を連れてきてくれる…この感ずをこれからも大切にしたいと思ひます。

ご協力いただきました当事者・ご家族、事業所等の関係者みなさま、そして、ボランティアとしてご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



地域生活の仕組みづくりワーキング

長期入院をされている方を対象にアンケートを実施しました。アンケートについては、どのような内容が良いのか、病院スタッフや福祉事業所の職員、行政と検討しながら作成しました。作成したアンケートは、病院の協力もあり約60人に聞き取りをすることができました。約60%の人が「退院をしたい」と想われている結果でした。退院に対して不安な気持ちがあったり、支援者側からの情報提供不足が合ったりすることもわかりました。このアンケート結果を基に次の取り組みに繋げていければと思ひます。

訪問介護事業所連絡会

研修会「障がいのある人への対応～思春期をむかえるにあたって～：講師河村理英子先生（河村小児科）」の企画・開催、長期休暇オープンスペースを活用しての「利用者♡ヘルパー交流企画：バルーンアート（夏）紙けん玉づくり（冬）」等をおこないました。

その他、部会内で障害福祉課から制度等に関するプチ学習（情報提供）をしてもらったり、事業所同士、日頃の悩みや近況を報告しあいました。



ライフステージにおける発達支援部会

ライフステージにおける発達支援部会では、年2回の部会を開催しました。

また、「心をつなぐサポートファイル結愛」の普及啓発に関する取り組みとして、児童発達支援事業所の職員のみなさんと活用方法について協議しました。

昨年に引き続き、発達障がいのある人の相談窓口リーフレット「ポジティブライフガイド」の各関係機関への配布も行いました。

相談支援部会

毎回多くの方に参加いただき、学習、情報交換 etc…を継続しています。平成26年度は、廿日市市内の事業所の状況を知って支援に役立てようということで、希望者で事業所見学にうかがい、事業所情報をまとめる作業をはじめました。また、相談支援専門員の過酷な業務実態をデータ化してみようということで、基本相談実態調査にも着手しました。

工夫しながら改善できることはないかと意見を出しあい協力しあうスタイルで部会が運営されています。

権利擁護部会

平成26年度は、10月23日（木）に「権利擁護研修会～障がいのある当事者の視点から～：講師大元誠司さん（日本筋ジストロフィー協会広島県支部）、平山圭紀さん（有限会社ケーアイワークス）」、3月3日（火）に「安心して暮らしていくために知っておきたいこと：講師谷川ひとみさん（谷川社会福祉士事務所）」を開催しました。どちらも大変わかりやすい研修会で、当事者の方が日常生活の中で感じられる権利擁護について、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業（かけはし）について等知ることができました。

権利擁護部会は、今年度から、部会構成が少し変わり、学習・啓発部会権利擁護ワーキングとなりますが、引き続きはつかいち福祉ねっとのみなさんの声を聞きながら、権利擁護に関する研修会を企画していきます。みなさんのご意見をお待ちしています！

計画策定への、ご協力ありがとうございました

昨年度は、「第3次廿日市市障がい者計画・第4期廿日市市障がい福祉計画」の策定に、ご協力をいただき、ありがとうございました。

障がい別部会や課題別会議で話をさせていただいた皆さん、アンケートにより意見を伺った皆さん、表紙や挿絵の絵や書、写真を提供して下さった皆さん、その他多くの皆さんの協力によりできあがった計画です。

このたび、冊子が完成しましたので、順次、配布しております。まだの方、もう少しお待ちください。

廿日市市が「障がいのあるなしにかかわらず、ひとりひとりが、あたりまえに、笑顔で暮らせるまち」になるよう、皆さんと共に、考えて行きたいと思いますので、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

（廿日市市 障害福祉課）



ピクトハウスは..



「障害があっても地域の中で生きがいを持って、社会参加出来る場を創りたい!」という願いが形となり、1998年に産声を

上げました。2009年からは「生活介護」「就労継続支援B型」を併せた多機能型事業所としてスタート。

「ピクトハウス」とは、「Picture book House=絵本の家」からの造語であり、「絵本の中の世界みたいに、誰もが自由に創造性を持って活動できるように」という願いが込められています。食品加工（焼き菓子、パン）や手工芸品製造（さをり、縫製、木工、ビーズ）、リサイクルや農園芸などの作業の中で、一人ひとりがやりが

みなさんこんにちは♪ピクトハウスの千頭（ちかみ）です☆今回はピクトハウスの中で、笑顔と笑いを振りまき、マジメに頑張ってくれているドイツ人ボランティアと職員のことをご紹介します♡



達成感を感じ、レク活動や年間行事を通して、自己肯定感と社会性を上げていける事を大切にしています。



ベルリンにある「ijgd（国際青年奉仕会）」と「独日平和フォーラム」が共同で行うプロジェクトを活用し、彼らは広島にやってきました。ピクトハウスでは2012年から受け入れを開始しました。今は3代目ボランティアとなるジョシュア（以下J）さんと、ドイツから見事カムバックを果たした、初代ボランティアにして今では職員になった渡邊カイ（以下K）さんが在籍しています。



ジョシュア・フリケさん(19)



渡邊カイさん(27)

◆やりがいや喜びを感じる瞬間は？

J：メンバーさんが初めて名前を呼んでくれました。別のメンバーさんも外出した時に、僕の手を引いて頼りにしてくれました。とてもとても嬉しかったデス。

K：畑の仕事を任せられました。ガンバリマス！

◆YOUたちの夢を教えてください。

J：日本語をもっと上手に話せるようになって、絶対また日本に戻って来たいデス！そして看護師として働きたいデス。

K：日本語とピクトの仕事をガンバリマス！

彼らを通じ、世界は広く様々な人がいて、自分たちと言葉や習慣・文化が違う国があるということ、すなわち「みんな違って当たり前」ということを知るきっかけになっています。大変誠実で、メンバーさんにきめ細やかに温かく接する彼らの姿勢は、職員にとっても大いに学ぶべきところがあり、とても良い影響につながっています。

◆どうしてYOUたちは日本に？

J：子どもの頃から日本に憧れていました。ドイツの病院でボランティアをしていた事があり、日本でも福祉の仕事がしたいと思ったからデス。

K：もともと日本に興味があって、色んな国を旅した中で日本人の友だちができて、日本の文化を知り、もっともっと勉強したくなりました。



カイさんの担当作業。精魂込めて作った自慢の農園前で2ショット♡



昨年の旅行宴会の1コマ。AKB48を一生懸命踊る巨漢なジョシュアさん。

日々の色々な場面で生じている異国間の相互効果を含む、この小さな『国際交流』。もしも関心があられる法人・事業所の方がおられたら、ピクトハウスにご一報ください♡

次回の事業所リレーずいそう No.10は「ハクナマタタ」です！